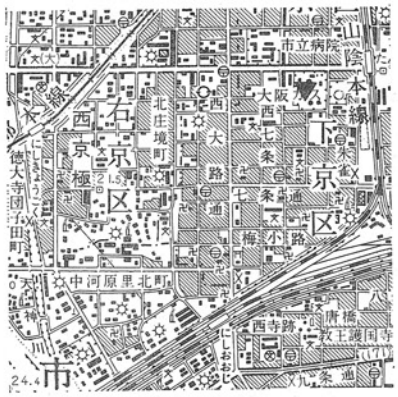
京都・平安京右京六条一坊十三町

1 所在地　京都市下京区中堂寺粟田町
2 調査期間　一九八九年（平1）四月～六月
3 発掘機関　㈶京都市埋蔵文化財研究所
4 調査担当者　梅川光隆
5 遺跡の種類　都城跡
6 遺跡の時代　平安～江戸時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は旧大阪ガス京都工場西地区にあり、ここの再開発に伴って発掘調査を実施した。一連の調査の中では、七区にあたる。この七区は十三町の南東部分を主とし、南部には六条大路が走る。十三町内では、若干の柱穴を認めたものの、明確な建物は発見していない。木簡(1)は、六条大路北側溝の位置に鎌倉時代に掘り直した溝から出土した。ただし、出土土器の多くは平安時代前期のもので、ごく少量鎌倉時代のものが混じる。従って、この木簡がいずれの時代のものかは定かではない。溝からは土器のほか、人骨・獣骨・木製品なども出土している。一方、(2)の巡礼札は、六条大路からその南にかけて広がる江戸時代頃の湿地から出土した。関連する遺物はない。



（京都西南部）

8 木簡の釈文・内容

(1) 「V□□久□□□」　(121)×24×3　033

(2) ・「　越前国□〔足カ〕×
　　○ 西国三十三×
　　文□五年〔禄カ〕×
　・「 ○ □□□□　(74)×41×3　019

(1)は墨痕がかなり薄れている。二字目は「見」かもしれない。

(2)の「越前国」の下は足羽郡(村)か。裏の一字目は「不」とも読めるが、意味が通じない。圭頭の中央に釘を打った穴があく。

巡礼札は、京都では、三条西殿跡で三点、左京九条二坊十三町で一点出土している。いずれも桃山時代であるが、文面・形式に若干の相違がある。三条西殿跡の近くには西国三十三所の六角堂があるが、本遺跡付近には札所はない。

（梅川光隆）